京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年

本紙定價　▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金貳圓▲郵稅一ケ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎

發行所　京城西署西小門通（電話六六三）　京城新報社

新聞雜誌記者筆禍

今や讒謗律は言論を壓迫し動々ともすれば新聞雜誌の發行を停止若しくは之を禁止して能事終れりとするもの〻如くなるが我國に於ても以前は斯かる惡風行はれ居たり即はち明治初年新聞紙印行條例とか又は新聞條例、讒謗律などいふ法律の發布されて以來新聞雜誌の記者中筆禍に罹つた者が少くないその中で明治十年迄の間に禁錮の刑に處せられた者を小池靜雄の著「日本新聞歷史」に據つて茲に摘載する

○明治八年

禁獄二月	あけぼの新聞	末廣重恭
同十日	東京日々新聞	甫喜山景雄
同五日	朝野新聞	成島柳北
同一箇月	郵便報知新聞	岡敬孝
同十箇月	横濱毎日新聞	塚原靖
同一箇月	あけぼの新聞	坂井喜三郎
同二箇月	郵便報知新聞	藤田茂吉
同二箇月	あけぼの新聞	長谷川孝

○明治九年

禁獄三年	采風新聞	加藤九郎
同廿五日	愛知新聞	曾羽潤逸
同二箇年	評論新聞	小松原英太郎
同二ケ年	同	山脇巍
同三ケ年	同	横瀬文彦
同八ケ月	朝野新聞	末廣重恭
同四ケ月	同	成島柳北
同二年半	采風新聞	本木貞雄
同十ケ月	同	矢野駿男
同三ケ月	評論新聞	西川通徹
同四ケ月	同	東淸七
同二ケ月	同	中島勝義
同二ケ月	同	滿木淸繁
同二ケ月	同	岡淸一郎
同三ケ月	同	柴田勝文
同一ケ月	同	田中直哉
同六ケ月	采風新聞	杉田定一
同一年半	郵便報知新聞	岡敬孝
同二ケ月	采風新聞	中島泰雄
同一年半	大阪日報	關新吾
同一ケ年	評論新聞	中島富雄
同二ケ月	同	高羽光則
同三ケ月	草莽新聞	馬越章造
同一ケ年	湖海新聞	倉本半太郎
同七ケ月	同	山田精一郎
同五ケ月	郵便報知新聞	牧田庸夫
同四ケ月	湖海新聞	今井數
同三ケ月	中外評論	高橋克
同一ケ年	大阪日報	萬代義勝
同一ケ月	西海新聞	西道仙
同四ケ月	近事評論	高羽光則
同三ケ月	中外評論	桧川杢藏
同三ケ月	朝野新聞	大久保鐵作
同八ケ月	東京曙新聞	阪井喜三郎
同三ケ月	同	中島泰雄
同三ケ月	讀賣新聞	永井磁
同三ケ月	普通新聞	伊阪淑八
同十ケ月	攅花新聞	有吉志一
同三ケ月	同	笹原吉太郎

○明治十年

禁獄五十日	甲府日々新聞	高瀨茂顯
同一ケ月	石川新聞	高桑芳致
同五十日	文明新聞	田中捨藏
同三ケ月	普通新聞	蜂須賀近義
同一ケ年	撥眠新誌	常井誠一
同一ケ年	東洋奇事新報	神代良太
同五ケ月	平安新聞	奥井淸風
同二ケ月	普通新聞	阪部重次郎
同三ケ月	問答新聞	八塚幹之助
同二ケ月	愛知日報	岩田德義
同一ケ月	大阪日報	山本錦二

右の如く現文部大臣たる小松原英太郎氏も「壓制政府顛覆すべき論」といふを掲載したが爲めに重刑に處せられて居るが當時は專制時代の事とて言論の壓迫審察に過ぎたので名士は屢々其刑を受けるに拘らず自ら署名することなく表面上の署名者に其責を負はしめる事となり明治十年後は主筆者を檢擧されることは稀となつた

●大連築港の新計畫

滿鐵の大連築港計畫は從來露國の設計を其儘繼承し工事を續け一部分のみ機宜に適應したる設計に依り築造し來りたるが今回新に北防波堤を西方に向け延長し之を旅順海軍防備隊へ連結せしめ其中間に一ケ所の出入口を開き以てジヤンクの來往を自由ならしめ尚ほ防備隊海岸に多少の築造變化を見るに至るべしと云ふ

●浦潮自由港の再興

浦潮自由港再興の議は極東在住の露人間のみならず露本國に於ても昨今頻りに唱へられつ〻あり聞く所によれば在露都西伯利團體は今回愈々自由港再興案を露國議會に提出したりといふ

●群山近海の漁況

群山水產組合支部の調査せる四月中に於ける同近海の漁況左の如し

▲鮟鱇網漁業　蝟島方面に出漁する石首魚漁業船數は百五十艘許にして同月八日頃より漁場に出で投網せしも漁期尚ほ早かりし爲め漁獲皆無なりしが同十四日頃より彿々漁獲ありて一潮時中約四日間の從業にて捗々しく漁獲無かりしが越て翌十五潮に至り魚群濃厚となり從て豫期以上の漁獲をなせり以上二潮時を合せ漁船一艘分の最高漁獲高は五百圓乃至五百五十圓最低五六十圓にして前年に比し頗る好況を呈しつ〻あるを以て今後一潮時間同近海に於て引續き從業の見込なりと魚價は漁場相場にて走り魚一尾三錢より漸次低落し二錢五厘乃至二錢二厘となりしが二潮目に至り頓に低下して一錢四厘より一錢二厘となり最後七八厘となれりといふ

▲エイ空釣漁業　茁浦近海に出漁する福岡縣移住漁者の漁船數は五六艘にして當月中旬より群山沖與合島山近海に轉漁せり漁況は茁浦沖にて漁船一艘分の最高漁獲高三十圓最低十一二圓にして平均一艘十七八圓の漁獲高に相當するが如し群山近海の出漁船數は約十一艘にして最高六十七八圓最低三十圓にして平均四十圓と見るも大差なかるべし漁獲高はアカエイ、カスベエイ、ヒラメの三種にして魚價はアカエイ大は一尾三十六錢より下落し十七錢乃至二十錢カスベエイ大は一尾三十錢小は一尾五六錢ヒラメ一尾八錢より下落して三錢五厘となれり

▲鯛延繩漁業　群山沖與答島沿海より竹島附近に出漁する船數は十五六艘なり漁期は例年八十八夜より一週間を經て漁獲ありしに本年は例年に比し十四五日間漁期早く出漁の日一般の漁獲高は最高四十圓最低二十四五圓の水揚あるを以て盛漁期に至れば莫大の漁利を收むるに至るべし

地方通信

平壤の電氣事業

本年一月日韓瓦斯電氣株式會社に於て平壤の電燈事業を出願せし以來同地の有志者等は相踵いで同出願を爲すに至り以來頗る面白からざる競爭運動を試み居れり即ち其競爭者は前記日韓瓦斯の外馬關の山本小次郎出願のもの及び門司黃徵商會の出願に關はる三個の同一出願者にして各々相讓らざる有樣なりしを以て一時は如何に成行くやらんと懸念しつ〻ありしが同地の有志者間に於ては日韓瓦斯の出願を卻け山本派及び黃徵商會派の兩者を合併せしめ而して圓滿なる解決を爲さんとて先般來兩者の當地發起人たる百瀨廣之助及び一方の發起者宮川五郎三郎、森脇義是の諸氏間に種々交涉する所ありしが尚は充分の解決出來ざるを以て今回韓國銀行當地支店長たる中村光吉氏を其調停者に推し專ら兩者の間に斡旋する所ありし結果漸くにして地方の間に妥協調停の模樣現はれたるが今其合併條件の内容を聞くに當地の電氣は之を當居留民以外の出願に關はるものは全然其出願を卻け居留民の出願に關はるもののみを合併して設立すといふ事となり即ち日韓瓦斯の出願は居留民以外の出願として排斥し次に居留民中の出願なる一方宮川森脇の諸氏側と百瀨氏側なる二者の合併を行ひ資本金は十五万圓とし黃徵及び山本は發起人とせず單に株主たらしむる事とし居留民を以て發起人とするとにて大体に於て妥協纏まりたれば近日中圓滿なる解決を見るに至るべし因に合併後は直ちに會社を設立し機械を外國より購入する筈にて之に時日を要するを以て其營業開始は本年十一月頃となるべしと

日本銘刀傳

第百九席　津田近江之守（十三）　邑井一講演

直助は赤穗の岡島彌惣右衞門の家を辭して大阪に參り津田越前守の仕事場の前へ立つて見て居たが、越前守が中へ這入れと云ふので中へ這入つて頭を下げて居るのだ越前守助廣は　助「是れ是れ何の爲でも覺えてしまへば譯はないが其の覺ゆる迄が容易なことではない就中刀と云ふものは人を護るべきもの武士の魂であるから、なか〳〵一年や二年で覺えられるものではない、夫れに器用不器用に依つて違ふ、百人のうちで一人山來るか出來ぬ位のもの夫れでもお前修業する氣はあるかい　直「ハイ、種々御親切に難有う存じます、私も性來の不器用ものでございますが一生懸命になつて一つ修業さして戴きたう存じます　助「さうかい、然ら云ふ氣なら一つ修業して見るが宜い、人間は一心程怖いものはないから、所で請人はあるかの　直「私は今日播州赤穗から此の大坂へ着いた許りでございますから知人は一人もございません　助「左樣か、夫れぢやア請人も要らない、さア臺所へ往つて飯を食へ　直「難有う存じます」と、直助は嬉し涙をホロ〳〵流して居る、其内に夜になりました、

刀鍛冶は朝が早いから夜も早く寢る、弟子一同二階へ上つて寢ましたが直助も隅の方へ小さくなつて寢て居る、然し夜具を被つたけれど何うしても眠れない、眼が益々さえて來る、胸に昇ぶる、赤穗の事が氣になつてならない、外の者はグー〳〵高鼾で寢で居るが直助は夜具の中でホロ〳〵涙を流し　直「旦那樣、岡島の旦那樣、何うぞ御免しなすつて下さいまし、私が突如に暇を願つたのは譯のあることでございまする、旦那樣、定めし大野を惡いと思召しでございませう、殘念だと、思召すでございませうか、何卒暫らくの間御辛抱を願ひます、よもや大野と及偽をなさるやうなことはございますまいが、短氣は損氣でございます、私が乾分を討つて上げますからもう少し御辛抱を願ひます、決して〳〵短氣をなすつてなりません。私が一心籠めて修業を致し、乾度立派な刀を拵らへて上げますから、何卒時節をれ待ち下さいまし」と獨言を云つて居る何うしても寢られない、直助は外の弟子の氣の付かぬやう臥床を出でまして階下に降り行燈を片手に下げて仕事場へ入り部かに掃除をしてそれから井戸端へ出て水を汲み、奇麗に拭掃除をして鞴場をも掃除し、プウ〳〵火を起し始めたプウ〳〵〳〵〳〵鞴を煽るど火がドン〳〵起つて來る又た神棚へ燈火を上げる、助廣は眼を覺して、何だ、今日は又た恐ろしく早く起きあやがつた、何たつて又た早く起きたんだ、まだ寅刻にもならんのに…」と起上つて仕事場へ來て見ると明日來た伊勢參りの直助が一人、ちよこなんと坐つて頻りに鞴を煽いで居ります　直「へー親方さん、お早うでこいます　助「オ、直助が、何うしてさう夙く起きたんだ　直「私は昔さんに掃除を手傳つて戴いては後から參りましたのでございますから濟みませんゆゑ先きへ起きてスツト仕事の支度をして置きませうと思ひまして　直「イヤ直助豪らいな、感心な奴だ、然し一朝や二朝早くたつて何にもならん何時までも忘れるな　直「ハイ、畏まりました必らず忘れぬやう致します、二階の弟子達は仕事場が大變明かるくつて何だかかや〳〵話聲がするから皆起きて來て「何だ、大變に早く起きたぢやア、お前は伊勢參りの直助さんぢやアねか　直「へーお早うございます「お早うなんで、與個に早過ぎらア」直助は一生懸命一日と雖ども朝遲く起きたことはない、一心になつて勉強をする、月日の經つのは早いもで　もう三年になつた

東京電報

▲御大葬期の決定 故英國皇帝御大葬は七日と報ぜしも五月廿日に決定せし旨加藤大使より公報ありたり(十一日)

▲外債は本日發行 エドワード陛下崩御の爲め延期せられし倫敦に於ける我外債一千一百萬磅は十一日發行を開始せり(同上)

▲印度皇族の歸京 過日來關西地方に御漫遊中なりし印度バロダ王は今十一日午後零時五十分名古屋發午後八時三十分新橋に御歸着相成りたり(同上)

▲鶴原氏の新聞經營 中央新聞は大岡育造氏の手を離れ政友會有志の株式組織となりたるが今回同社々長に前統監府總務長官現大日本肥料株式會社長鶴原定吉氏を推薦したり(同上)

歐洲電報

▲露國太后の渡英 露國皇太后及ミハエル太后は倫敦に於て來る十七日御執行のエドワード七世陛下の大葬に御參列の爲め昨九日御出發あらせられたり(十日)

▲前大統領の參列 來る十七日故英帝陛下の大葬には獨逸、葡萄牙、白耳義、諾威の各國皇帝の外前米大統領ルーズベルト氏も參列する事に決定したり(同上)

▲土耳古帝の平癒 激烈なる麻疹に罹られ御靜養中なりし土耳古皇帝は平癒せられたり(同上)

▲殖民地と會社法 獨逸帝國議會は諸殖民地及び膠州灣に於ける會社設立に關する法律案を否決したり(同上)

▲綿花職工の罷業 英國綿花製造業者間に大罷工起らんとす(同上)

▲露國の航路擴張 露國は近く義勇艦隊を以てオコック海及びベーリング海峽の航路を開始すべく決定したり其航路はカムサツカ、オコツク間、カムサツカ、チコトアナドイル間、カムサツカ、西カムサツカ間なり(十一日)

▲ル氏歡迎の延期 獨逸の米國前大統領ルーズベルト氏大歡迎會は英帝崩御の爲め延期せられり(同上)

▲獨逸帝の御渡英 目下ウイスバーデンに御滯在中の獨逸皇帝陛下は叔父に當せらるゝ英帝陛下の崩御の急報に接せられ俄に御豫定を變更急遽御渡英に決せり(同上)

▲獨逸陸海軍の服喪 獨逸陸海軍は共に八日間の服喪を命ぜられたり(同上)

▲新帝御即位の宣示 新皇帝は英國各地に御即位を宣示さる(同上)

北京電報

▲清皇室の參列者 清國皇室は濤郡王を皇帝御名代として故英國皇帝の御大葬に參列せしめらる(十一日)

大連電報

▲本溪湖の炭坑問題 本溪湖炭坑問題解決の爲め渡滿せる大倉喜八郎は今十一日奉天着小池總領事の歸任を待ち直に交渉開始す可(十一日)

雜報

經濟協會例會
(市原近藤石川三氏演說)

一昨十日夜經濟協會は其の例會を京城ホテルに開催し滯京中なる實業團を招待して晩餐を饗せしが特に會員以外の有志者も參加せるあり出席者九十名時節柄極めて質素なる食卓を圍みて懽語少刻にして市原盛宏氏起つて賓客に對して一場の挨拶を演べ夫れより評議員會に於て互撰の結果氏は幹事長に三島太郎、峯岸繁太郎の兩氏幹事に當撰せし旨を會員に報じ次で幹事峯岸氏會務の報告を爲し了るや市原氏は再び起つて左の意味の演說を爲せり

本夕日本經濟界に於ける有力なる實業觀光團の諸君を此席に迎ふるの榮を擔ふを得たるは會員一同の甚だ滿足とする處なり然るに我同盟國たる英國皇帝陛下崩御在ませしは與に痛嘆に堪へざる事にして今方に總ての宴會等を停止せらるゝより唯晩餐を呈するを以て自ら滿足せざるべからざるは一同の深く遺憾とする處去りながら諸君の韓國を通過せらるゝや各方面に於て歡迎の計畫あり固より觀光視察は之れを遂げられざるべからざるに滯在の日數は甚だ短かきを以て平常なりせば或は諸君の臨席を請ふの機會なかりしやも知れざるに斯く此の席に請ずるを得たるは實に案外の幸なりと爲す惟ふに諸君の任務は重且大なり此行對清貿易上將た政治上多大の効果を收め得らるゝや必せり殷鑑遠からず去年渡米實業團の贏得たる效果を例證とすべし然れば諸君の此國を訪はれたるを機として居留民は諸君に對して希望する處あり諸君も亦居留民に對する希望ありしならんも前述の如き次第にて遺憾ながら還を交換するの機會なかりしを以て本會は之れが仲介を爲さんと欲す苟も足を韓國に入るゝ者は二樣の關稅を拂はざるべからず一は稅關に於て課せらるゝものにして他は吾經濟協會に於てする形而上の課稅なりとす因て觀光團長は此の會を安宅の關と心得て演說を以て納稅の義務を果さるゝを要す尚此席に臨まれたる報知新聞北京特派員石川安次郎氏も亦同樣の義務を果されたし云々

右終りて團長 **近藤廉平氏** は京城に於ける錚々たる人々を網羅せる經濟協會が斯く此一行の爲めに此の例會を開かれたるは誠に感謝に堪へずと述べ此の機會に於て諸君の有益なる談話を聽くを得んかと期待せしに反て司會者は此の會を安宅の關と稱し納稅を強要せらる然れども予は經濟學者にあらざれば經濟上有益なる談話を爲し得る者にあらずと謙遜し二十餘年前三港の開港より氏が日清役後初めて渡韓したる當時の狀況を說て今昔の感を述べサテ曰く

日露戰役の後統監政治布かるゝに至り邦人の數年を逐ふて多く貿易は日に共に盛にして前記の三港の如きは却て盛衰ありと聞く頃者或は郵船會社は韓國より手を退かんとするにあらずやと云ふ者あり其理由は吾社の韓國航路に對する現狀に見て聞く推察されたるならん而して海運の衰退せしが如く思はるゝやも知れず然れど是は衰退にあらず自然の推移爾らしむる處なり鐵道は韓國を縱貫し陸上運輸の利便開けたるより自然船舶の數を減ずるの結果を來せしのみ如聞者近時沿岸航路開け年を追て盛んなりと又以て海運の衰退せるに非らざるを知るに足らん想起すれば予が初めて渡韓せしは日清戰役後なりしが當時京城の居留地に於ける日本人家屋は僅公使館等在るのみ日本人の數も至て少なく市街の不潔なる言語に絶する態なりしが今は居留民の增加せる街區の體裁の改まれるは勿論經濟機關の整備に至るまで數へ來れば實に今昔の感に堪へざるなり若し夫れ安奉線竣成の曉在韓同胞が如何の發展を爲すべきやは蓋し想見するに難からず尚ほ本會は政治上の談話を容さずとの事なりしも請ふ予をして予の見聞に就て語るを得しめよ韓國は統監政治の下に益々政治上將經濟上急速なる進歩發達を爲しつゝあるに由り吾等は名の如何に關せず其實に於て滿足すべきならずや然るに頃者合邦問題なるもの起りき予は該問題の近き將來に於て發表せらるべきや或は遠き將來に於ても遂に發表せられざるべきやを知らず又其の火元が日韓何れなるやも識らざれども合邦の事たる決して容易ならざる問題なりとす吾等は獨逸及墺匈國等の例に鑑みて合邦が果して兩國民の幸福なるべきや否を十分に講究し自然に其時機に到着することあらば何時にても之れに應ずるの準備を調ふるを要せずや而かも又合邦以上の福祉を國民に齎すべき方法あらば即ち之れに據らざるべからず苟も小利害の爲めに累せられて輕忽に事を處すべきにあらざるを信ぜんとす

次で幹事長 **石川安次郎** 氏に迫る氏は起て曰く予は峯岸君等と共に故鼎軒博士の門下にして自由貿易論者なるが峯岸氏を幹事とせる本會に於て市原氏より關稅を強課せらるゝが如きは甚だ奇怪の感なき能はず然かも予は饒舌ることを好むが故に進むで納稅せんとすとて極めて輕快なる辯舌を以て說起し

予の清國に留まれるは歲月甚だ久しきにあらざるも尚少しく調査研究を遂げたりと信ずる節なきに非らず因て實業觀光團諸君の爲め觀察の栞とも成るべきものを述べんと欲す先づ鴨綠江架橋工事は我邦工業界に於ける一つの誇りとすべきもの一見せらるゝの價値あり次は同江の木材なり聞に依れば露人の經營せる橫鹽河子材の爲に驅逐されんとす又諸君の視察を煩はしたし安東縣の柞蠶事業も頗ぶる有利の事業なるも資本を供給する者無き爲め大規模の起業を有す能はずと雖も亦諸君の一考あらまほしき問題なりとす尚撫順の炭鑛に至りては東洋より南洋に亘れる大市場に於ける重大問題なり仔細に觀察せらんことを要す

と說き錫良の人物評伊藤公と錫良の會見談より移りて詳細なる鹽程の案內を爲し而して

諸君は京長鐵道に依り萬里の長城を踰へて胡地に出で蒙古沙漠の大氣を呼吸し北京に引返へして思を潛めて英獨諸國が商業上の驅引を研究せられよ蓋し思半に過ぎん此外咸陽の製鐵所太冶の鑛山等見るべきもの頗ぶる多し云々

氏が快辯は確かに滿場を醉はしめ其の甚だ短からざる演述も聽く者をして時の移るを覺らしめざりき聽て十時三十分一行の健康を祝して散會

●土地調査員の入學 官立漢城外國語學校に附設したる臨時土地調査技術員養成所は今回八百餘名の志願者より五十名を選拔して入學を許るし九日第一回開業式を擧行せり當日は土地調査局副總裁を兼たる俵學部次官及土屋同局測量部長佐々木調査部長等臨場し各一場の訓示を與へたり又官立漢城高等學校附設調査事務員養成所も千餘名の志願者中より五十餘名を撰拔して來る十二日開業式を擧ぐる由前者の修業年限は一箇年後者は四箇月にして共に卒業の上は調査局員に任用する筈なりと云ふ

●在留邦人の現在數 各理事廳の調査に係る本年二月末日現在居留邦人左の如し

理事廳名	戸數	男	女
京城	三、八一〇	三、四四一	一九、六〇三
仁川	三、五四一	六、九四六	六、〇五三
群山	二、四六四	四、三三四	三、五五四
木浦	二、一〇六	三、八〇八	二、九六八
馬山	二、四〇〇	四、六三三	三、七六六
釜山	七、四八四	一四、三八五	一三、三五一
大邱	二、六四八	四、六七九	三、六三三
元山	二、三三三	三、八四四	三、三三八
清津	二、一四〇	三、六六〇	二、九五七
城津	一八二	三一七	二〇九
平壤	三、一〇六	六、二四一	四、二六一
鎭南浦	一、一四四	二、一六五	一、七六三
新義州	一、八三五	二、九六八	二、三三三
合計	四四、〇九七	八〇、四四二	六七、〇〇八

●耶蘇學校生の轉學 鎭南浦普通學校にては客月十五日より五日間學藝品展覽會を開催せしに父兄等の來觀するもの頗る多く此百聞一見的計劃は彼等に對し洵に良好なる印象を與へ文明的學術の益々信頼すべき所以を覺知せしめたるものゝ如く爾來耶蘇學校に在學する生徒及父兄等は該校の徒らに空理空想のみを是れ鼓吹するの弊あるを厭ひ官立學校に轉學するの傾向顯れんとなりと云ふ

●鐵山實地引繼開始 先日枝光製鐵所より載寧殷栗載山實地引繼の爲め入京したる大谷曾記官等の一行は鎭南浦に於ける殷部製鐵所出張所長農商工部村田技師等と共に去る十日より現地に到り實地の引繼を爲すと同時に安岳、載二浦、黑橋、黃州及び江西等の鐵山も巡視中なるが來る二十日頃迄に引繼及巡視を了る筈なり

●露國二領事の會見 馬山駐在露國領事が過日入京し當地總領事館內に滯在中なるは既報せしが更に又元山同領事も亦微行にて兩三日前入京せり右三者の會合に就ては素より秘密に屬するも傳ゆる處によれば此頃噂さるゝ日露協約に關し本國政府の命に依り韓國の近狀を調査して報告すべく而して彼是連絡統一を打合はす爲めなりと云ふ

●韓學生日本留學數 目下日本に留學する韓國學生の數は官費留學生七十六名私費留學生三百四十九名にして官費留學生の內二十四名は先年一進會より出資して留學せしめたる者なるも其後一進會は出資を廢したるに依り學部に於て補助したる者なりと云ふ而して學部の補助は先月を以て滿期となれりと

●英公使館と弔訪者 英國皇帝陛下崩御に就き同盟の誼を有する吾が國は一般に慟哭の聲に蔽はれつゝあるが當地に於ても同樣にして其を弔訪するもの無慮數千の多きに達し同館門前は車馬絡繹たりと云ふ

●不開港往復特許料 外國船舶を借入れ不開港間を往復する船舶に對する特許手數料は左の如し

一、十噸又は百石以上は一噸又は一石に付 四錢

二、其未滿は四十錢

●韓政友會の開會式 既報韓國政友會は金宗漢總裁を承諾したるを以て十四日奬忠壇に發會式を擧ぐべく同人の名を以て案內狀を發せり

●豫備金の支出裁可 豫備金より左の金額支出裁可せらる

地方行政費不足追給 二、五七二圓

元法部經費不足追給 一、二六三

●次官代理の招宴 十二日京城ホテルに於て松井警務局長は岡內部次官の代理として新任山根衛生囑託及宇野事務官兼任保安課長を主賓とし他內部各局課長等を招宴する筈なりと云ふ

●中學校の運動會 統監府立中學校にては來る十四日午後一時より慶熙宮構內に於て運動會を開催すべしと云ふ

●松井警視の歸任 入京中の同警視は十二日任地木浦へ向け出發する由

東拓社債の發行

豫て報導したる東拓會社の資金は愈々社債發行に決定したる由にて目下東上中なる宇佐川總裁は此の件に付內外債の內何れを取るやに就きて決定する筈なるか內地に於ける社債の發行なれば差向ち需用額丈を募集し外國ならば東拓法の規定に基き拂込資本金の十倍即ち貳千五百万圓を日本政府保證の下に發行する計畫にして利率は手取り五歩見當の豫定なりと

半數改撰の準備

京城商業會議所は六月三十日を以て半數改撰期となるを以て同所にては六月一日現在の資格名簿調製の爲め目下調査中なるが曾て落選し又野心勃々たる連中は窃かに競爭の準備中にて既に機敏なる輩は依頼狀さへ發したるものあり而して今回は來る十月民會議員總選擧を控ね居るを以て特に激甚なる競爭を現出せんずる形勢あり且つ此餘波は個人間の嫉視反目を惹起し民會議員總撰擧に對し面白からざる惡影響を來すべしと云ふ

●四月中の京城金融 京城に於ける四月中の金融狀況を調査するに春陽に向ふと共に昨今多少の繁忙を加へんとする折柄合邦問題の喧傳と共に四月始に至り株式界に活氣を與へ日韓瓦斯其の他の諸株暴騰を呈すと雖ども全般を通じて緩漫なる今日金融界には著しき影響なく同中旬に於ける韓國銀行利金引下げ米穀綿花の輸出一段落を告げたる事とて大勢は依然靜穩の狀態なり然れども一面久しく寂寥を極めたる商工業界稍や活氣を呈し米價の恢復と共に可なりの出廻りあり大豆牛皮の買出及綿布、綿糸等其の他夏向物輸入に對する代金支拂の爲め多少資金の需用を喚起し前月に比し日本側三銀行の預金に於て減じ貸金に於て十萬餘圓の增加を見る亦た一方韓國側五銀行に於て預金に於て六十余萬圓を減す貸金に於て三十五萬余圓を增加せり是等は何れも其の大部分純然たる商業資金なるが如く以て其の大勢を推知するを得へし

●東亞煙草韓國工場 東亞煙草會社韓國工場は爾來倍々製造力を增加し現在の職工總數八百三十余名に達し尚は志望者續出せるを以て銓衡の上二十名位宛採用し居れり此有樣を以て推移すれば豫定の二千名を使用するの域に達するは近き將來に在るべし而して製造品は現在朝日、ウエルス、ハチピーの三種なるが既に朝日は全道普ねく分布せられ今日にては官煙の輸入を仰ぐを要せざるに至れり故に更に余力を餘し兩三日前より大和の試製に着手せるが其製品を見る亦遠からざるべく尚ほ韓葉加工に就ても特種製品を出さんと目下研究中なりと云ふ

●四月中の京城商況 京城に於ける四月中の商況を見るに前月に比すれば稍や好況を呈し幾分活氣を加へたるが如き感あり初旬以來麥酒洋酒等を始め食料品紙類煙草其の他の雜貨類は日を追て賣行を增加し亦た大豆の如きは益々順調に向ひ出廻り多く頗る盛況を呈せり然るに一方韓人向の雜貨類に至りては日增し購買力を減じ居るが如し今後諸官衙民間に於ける建築工事の着手と共に木材其の他雜貨類等の大口の賣行あるに至らば市一層の活氣を添へ大に人氣恢復を見るに至る

●最近各地米豆相場 度支部に於ける最近各地米豆價格如左

	上玄籾 圓	上玄米 圓	上大豆 圓
仁川	三、六〇〇	八、四〇〇	八、〇〇〇
群山	四、四〇〇	八、一〇〇	六、八〇〇
木浦	五、四〇〇	八、二〇〇	六、三〇〇
馬山	四、四〇〇	九、〇〇〇	七、三〇〇
密陽	三、一〇〇	八、〇〇〇	六、三〇〇
海州	三、九〇〇	八、〇〇〇	六、〇〇〇
鎭南	四、八〇〇	八、五〇〇	七、五〇〇
龍岩		九、七〇〇	七、一〇〇
平均	四、二六〇	八、四三〇	六、九一〇

但し龍岩浦玄米欄の價格は白米なり

●谷田司令官の消息 北韓地方視察中なりし憲兵司令官陸軍中將谷田文衛氏は昨十日を以て右視察を終り今十一日午前十時咸興出發歸任の途に就けり一行は十三日釜山を經て十五日歸京すべしと

●平壤控訴院長巡視 平壤控訴院長永島巖氏は五月四日付稟請平壤地方裁判所管內安州區裁判所外五箇所へ事務視察の爲め出張の件本日認許せられ不日出張事務視察の筈

●松寺書記官の巡視 司法廳書記官松寺竹雄氏は司法及監獄事務視察の爲め小寺屬外二名を隨へ來る十六日頃當地出發全羅、慶尚、忠清の各南北道へ出張すべし

●山口高商生の來京 山口高等商業學校生徒八十余名は教師三名に引卒せられ來る十五日京城に到着三日間滯在する豫定なるが其一日を割きて視察の爲め仁川に赴くべしと

●李學相の南韓視察 學部大臣李容植氏は李秘書官及び韓主事各一名を隨へ明十二日南大門驛發釜山へ直行し往復二週間の豫定を以て沿線各地の學事視察を爲す由

●大邱農林學校調査 公立大邱農林學校に於ても其速成科に土地調査局技術員養成所同樣のものを附設し今回四十名を收容して昨十日より授業を開始せりと云ふ

●李總理溫泉行未定 溫陽溫泉に赴くべき決定したる李總理は政務の都合上京城を離れ難き事情ある爲め今尚は未定なりと云ふ

●英國軍艦仁川入港 英國軍艦フロザー號は十一日午前十一時威海衛より仁川に來航拔錨せり

公人私人

△殷濱忠太郎(元山會議所書記長)歸任

△矢鍋永三郎(公州財務監督局長)歸任

△田口久盛(海軍大尉) 十日仁川へ

△成田新郎(開城郵便局長)十日開城へ

△森脇虎壽(千葉縣技師)十日不知火へ

△水谷千万吉(海軍機關中佐)知浦尾へ

△小野是一郎(內部土木局技師)同上

△武川盛次(韓銀大邱支店長)兩山本へ

△石澤雄右衛門(農學士)大邱へ向ふ

寄書

京龍合併問題

京城本町六丁目 田村義次郎

予は曩に京城新報(五月五日)の余白を借り京城龍山兩民團合併問題に關し京城居留民諸子と共に其利害を研究せんと欲し合併を贊成する民會議員諸君に向て其說の內容を公示せられんことを要求したり爾來數日未だ諸君の高論を一讀するを得ざるを遺憾とす予は單に合併反對論者たる皆川議員の論文のみを讀て京城居留民に重大の利害を及ぼす所の本問題を評論するを欲せず細かに贊否兩論者の說を比較講究し以て卑見を陳述せんとするなり予は切に合併贊成議員諸君の速かに大論據の有る所を細說せられんことを望む

▲治外法權▼

韓國經濟協會五月例會は近藤廉平君以下實業視察團の一行と報知北京特派員石川半山君の出席があつた爲め近來に無き盛會であつた▲晩餐了らんとするや市原幹事長の指名により近藤團長は協會內規の關稅を拂ふべく起つた、其言ふ所近が實業家の代表者として極めて眞率着實なものであつた▲近藤君曰く若しも日韓合邦が日韓兩國民の福祉增進に益があるならやつても良い、併し目的は福祉增進にありだ、一体コンナ大問題の解決に無理は禁物だ、よくよく研究した上でやるべしだと▲次に市原博士は石川半山君に納稅を促かした、半山君は起た、曰く本會幹事の一人峰岸君は故鼎軒博士の門弟で自由貿易論者だ、此自由貿易論者のやつて居る本會で關稅をとるのは甚だ不條理な事だ、併し御命令であれば仕方がないと一時間余に亘つて滿洲及北京の案內談をやつた、半山君の演說は載せて別項にあるが其快辯は實に聽者を醉はしめたるの觀があつた▲或人近藤、石川兩君の演說振りを評して曰く前者は中禪寺湖水の如く後者は大谷川の急流の如しと、何しろ二名士の演說を一夜の中に聽くを得たは望外の幸であつた▲過日實業視察團が仁川へ下つたとき十九輛の人力車が一時間半も掛つてトウトウ揃はなかつたソウだ▲限本中學校長此頃金筋の制服を着けて居る、之れがため學者としての品格は少し下つて見ゆる、併し生徒に對しては体面保持上有効であるかも知れぬ。

名妓洗髪のお妻(六)

▽伊藤公に酒の口移し ▽羽左衛門との別れ話

お爺さん、御前さまになつたり、お爺さんになつたりしますが、お爺さんといふのは伊藤公爵の事なんですよ、眞面目なをりは御前〳〵と云つてますが、少し酔ふと直ぐお爺さん〳〵と私は云ふのですが、私の言ふ事は大抵な無理も聞いて下さいますといふのも、實はお爺さんの氣風を呑込でゐて其れに當て箝るやうに言ひ廻すのですから何んでも聞いて下さいます、口幅つたい事をいふやうですが、お爺さんに言ふ事を聞かしたのはお倉さん、あの富貴樓のね、其れから私どでしたわ新喜樂の女將さんなぞが妻たがつてゐらつしやるが、何日何時に喜樂へ來て貰へまいかねと云はれると私が取次いだものですが、大抵來て下さいました、朝鮮へ行つても此式でもつて、やりたかつたのですと思ふと、あの折に思切つて何故行かなかつたのだらうかと殘念で溜りませんわ▲それで何時かね、お座敷は何處だか忘れもしましたが、私がベロ〳〵に酔つて了つて、お爺さんが其の席で人に頼まれ、何か揮毫をしてゐらしやりました太い筆に墨を含まして、紙に向つてヤつと書き始らうといふ時、私が二階へ上つて來ましたかグデン〳〵に酔つてるものですから、周圍構はずお爺さん、と云つて右肩に倒れかゝつたので、折角の書が滅茶〳〵になつて了つた時ばかりはお爺さんも六かしい厭な顏をなさいましたが、私は其んな事は一切お構なし、字なんかお茶屋で書かなくても好いわ、お酒〳〵と他愛がない、お客樣も藝者も一座の者は呆氣に取られてゐるものですから、傍のお杯にて手酌でグウ〳〵三杯飲で、お酒を口に含んだまゝ、お爺さんに口移し、首つ玉に噛り付て口から口へお酒を注ぎ込んだのですがね、私は酔ふとよくお爺さんに此の口移し酒をやるのですが、流石のお爺さんも此ればかりは何時も厭がるので、此れがお爺さんの嫌んで閉口することの一つ▲私しがお爺さんに嫌まされるのは他でもない、頭さん…頭山滿さんですよ、あの人の事を云はれると、私は實に厭な氣がします、他の御親類筋の事を乙に絡んで云れても何とも思ひませんが頭さんの事ばかりは閉口頓首大に嫌まされますといふのも、頭さんとお爺さんとはあんなに長い間の天下の敵味方でせう、其れでお妻、おぬしが市村と如何に深からうが、おぬしの眞の男は頭山だらうと云はれると、妙に身が斯う竦むやうになるのですわ▲市村の話が伊藤の御前にそれて了ひましたが馴初めから話した市村の事ですから、分れる時の話を聞いて下さい長い八ヶ年の間の市村と分れるに至つたのも、實は頭山さんへの浮世の義理からなんでした

西小門通の捕物

▽十二日午前一時の出來事 ▽京城座舞臺上の大立回り

十二日午前一時頃西小門通りの料理店愛媛亭に於て刃物騷ぎありたるが暴行者は加治山富三郎なるものにして同亭主人と金錢貸借問題より爭論を惹起し居たるが熱して加治山は携へ居たる刺身庖丁を取り出し暴行に及ばんとせるを先の程より同人を追尾し來り戸口に其の動靜を伺ひ居たる南署某刑事は矢庭に躍り入り荒れ狂ふ加治山に捕繩を投げ掛け一方人を走らして巡查の應援を求めたるが加治山は死屈せず刃物を振り回し此の繩を解かれば鏖殺しにして自害なすを得て難なく之れを取押へ南部署へ引致したるが何故に南部署刑事が同人を追尾し居たるかと云ふに加治山は先頃迄京城座の大勘定なりし中島傳治郎方に內緣の妻諸共寄食せる者にて同夜京城座の留守番岡某が同座の火鉢が中島方に貸與しあるを受取りの爲め出向きたる際飲酒中なりし加治山は岡某が來るより早く刺肉庖丁にて斬り蒐りしも岡は素早く身を轉し加治山の面部を擲り付けて中島が仲裁の隙に乘じて逃げ出したるを見向きも行らず何に思ふてか傍に居りし妻の芳子の頭髮に手を掛けブツツリ切らんとせしも生憎鈍刀にて半分も切れざるより泣き叫ぶ妻を後に面喰へる中島等を突き除け其の足にて京城座に躍り込み何も知らず喫煙中なりし清水某の一本しかない左の腕に斬り付け輕傷を負はせ己れも敵の破片なりと逃ぐるを逐ふて舞臺の上を逐ひ回はし彼れの逃るゝを見るや又々表へ飛び出し踪跡を晦ましたり此の報に接したる南部署刑事は必定以前寄食中酌婦芳子を誘ひ出したる爲め近來不和なる前記愛媛亭へ同人前借金の支拂ひ方に關する談判に赴きたるものなるべしと推測したるよりなりとか然るに果して同亭に入り頻りに談判中なりしが遂に醉に驅られ又しても刃物を振り廻はしたるものなり因に芳子の頭髮を切らんとしたるは右の髮を携へ愛媛亭に謝びん心なりしやに思はる何にしても念の入つた醉興なり

少女四度目の嫁入り

▽年は僅かに十七歳

世の中に嫁入りは四度迄なさねば嫁入りの內に入らぬとはよく人の云ふ事なるが僅か十七歳で四度目の嫁入りは珍とすべし頃は五月十日午後六時頃日はまれなんとする折り柄東小門外を花見紛ふ計りの嫁入を五十前後の男が同行する話しぶり歩きぶりが親子とも見受けられぬ怪しき節あるより警官東署に同伴し來り取調べたるに女は利川居住の金姓女(一七)にて此迄既に三度嫁入りしたるも思ふ樣な男がありませんので此の人に頼んだ所世界第一の美男子に世話して呉れるとの事で只今其の人が戀しさに連れられて行く處なりと答へ男は南部犂洞玄順五(五〇)にて女に頼まれ同行の所怪しまれたるものにて決して不埒な者ではありません周旋料にて七十五日も生き延ん都合なりしと申立てたるに村双方說諭の上放還

珍說目張魚と猿

▽南部署へ告訴提起

旭町二丁目に住居して測量製圖並に建築設計請負を業とせる楠原三右衛門と云ふは顏附きの嫉妬家にて常に好んで流石饑渇腹を抱へたる朝鮮犬も門の穴から眺めた計りで食はうともせぬ夫婦喧嘩に近隣の迷惑一方ならざりしが去月中のことか內緣の妻瀧田ちか(二五)とチン〳〵喧嘩の揚句ちかより別れ話しを持ち出したるに三右衛門殿眞赤になり貴樣が左樣云ふ屁見なら俺しが方には未練はないが目張魚が鼻毛を拔かれた如な貴樣なんぞを女房にする樣な男が俺より他にあると思ふが間違ひだ今迄連れ添ふて居た誼に是れだけは云つて聞かして置くと早速三行半を書き與へしにちかは夫れを握つて飛び出し間もなく旭町一丁目の磯部昌一と內緣を結び居たるが十二日の午後一時頃原方に至り私もお蔭樣をもちまして今度磯部と云ふ若い亭主を持ちました就きましては何卒荷物をお渡し下さいましエツヘンと行らかしたるに三衛門怒るまいことか猿が尻の毛を拔かれた樣に怒り出し生意氣吐くなとガンと云ふ程擲り附けたるに眼玉がスポンと飛び出したかと思ふ程痛かつたのでワツとも云はず南大門通り長谷川町角の派出所に私が今殺されましたと訴へ出で告訴を提起しなければ今の亭主に濟みませんと惚け交りに泣き居たるを三面子がチヨロリ

女振り

淺野長七氏夫人 淺野のはな子

淺野長七氏は人も知る三井物產合名會社京城出張所々長で京城日本人商業會議所議員、從七位勳五等の陸軍中尉である、現在のお住居は旭町一丁目、產地は千葉縣、笠間ならば四十七義士で有名な赤穗の淺野家と同族であり相に思はれる、はな子夫人は大阪の產で本年正に三十五歲、淺野君の前任地濠洲やボンベイなどへも同行せられて居られた丈けあつて交際振りに五分の隙もない鮮なものである、お子供衆はお四人、一番上の坊ちやんが十三で純一君、次が十一のお孃ちやんでゆき子さん下のお二人の名は省いて置く、女中は四人召使つて居らつしやる、內二人はお子供衆のお世話を擔當して居る、御實父も當地に來て居られる筈だ、夫人の交際振りは外にのみ鮮かなのでない女中や車夫やへ對しても又然うである、時には夫人親ら上つ張り姿で女中に立ち交つて庖厨の事に從はるゝ事もある、其の甲斐〳〵しさには誰れ一人として舌を卷いて驚嘆しないものはない、長七君は隨分の酒豪で痛飲夜を徹することもある、醉へば妓を擁して寫眞なども撮る、が夫人は長七君を信用して更らに干涉を試むることは爲ない、然らば夫人は恬淡事に滯らざる濶達剛毅の質であるかと云へば左樣でもない一面非常な神經質の處がある、惡疫流行なぞと來ると神經を惱まして下痢を催すこともあるのだ、と云ふのでもモウ夫人には禁物である、當時は內地に歸つて御座る。

お茶羅のちやらつき力

▽龍山方面ちやらつきの事

花月が宿にお茶羅といふ拍子あり何うした拍子で生れ何うした拍子で藝妓を志願せしやは知らねど親の命けた名よりも藝名のお茶羅が能く本性に似通ひて譬へば雪駄を穿きしやう歪つてチヨ〳〵乎として而してハンペンの水煮を食べしことは無けれども若し食べたらば那麼ものかと思はるゝばかり何の味も無き代りに厭な臭氣も御座無く然程に立てられもせず樽かされもせぬ何處までも雪駄式に出來上りたる妓なるが此の妓色は白いと云ふよりも靑きに近き女とて近く寄つても中々にソレアノ美人ながら若し遠く立たせて見やうなら彼れがおちやらかと怪まるゝ程に美しく見ゆるとかや去程に此のおちやら近頃時々龍山新市街の方面をちやらつき廻はり厳き武人が拍車の音と其香の高きを競ふ程に土地の人々は何國の山奥に棲む化性の者かど小鼻の邊りをピクつかせ素性を知れる人々は彼の妓に其樣な腕が、イヤ腰が、イヤサちやらつき力がある譯のものなりしかと頗ぶる面妖がり居れりとぞ

●執行猶豫の恩典　岩崎龜之助なる者が昨年十二月二十八日仁川新町一丁目時計商島名藤太郎方に至り自宅に銀側懷中時計及附屬品を持ち來て與れ代金は三十一日に支拂ふ可くと詐き騙取り尙ほ二十九日同手段を以て花町一丁目古物商鈴木千代吉より懷中時計外三點騙取したる事件は曩きに地方裁判所仁川支部にて懲役四ヶ月に處せられ控訴中の處十日當控訴院に於て懲役四ヶ月の二ヶ年間執行猶豫の恩典を與へられたり

●清國小兒の惡戯　仁川牛角洞の鐵道線路に大石を積みて滊車の通行に妨害を試みんとしたる犯人は其筋の手にて嚴探の結果同洞居住の淸人叢玉(一四)の所爲と判明せしが別に他意ありとも思へず只だ子供心に惡戯を爲したるに過ぎざるが如しと雖も由來同洞方面に於て滊車に向ひ投石せし事一再に止らざれば或は之れが行爲も同人にあらずやとて嚴重に取調中なりと云ふ

●韓人孤兒の保護　万石七(一〇)は蓮洞派出所管內を徘徊し居りしが服裝と云ひ言語と云ひ日本人に疑しき位なるが北署に同伴取調べたるに兩親は死亡し纔きの頃迄日本人和田某に發育せられ居りしも和田某は渡滿せしより彷徨し居る旨申立たるに付目下北署にて保護中なるが若し慈善家にして使役せらるゝ向あらば申込んで聽諾すべしと

●巡查僧侶の喧嘩　西部署巡查張景浩は職務を帶び十一日東大門外開運寺に到り僧侶李碧峰に對し一寸來いさ言ひしに碧峰は生意氣な事を言ふと地獄にやるぞと云ひしより巡查は何生意氣など僧侶を毆打せしより格鬪となり結局東部署に持ち出し僧侶には巡查より說教し巡查にも亂暴を說諭せしとは困つた僧侶さん

●饂飩路軒で無錢飲食　黃金町廿五番戶重野吉五郎(三六)は饂飩路通り飲食店饂飩路軒に登樓飲食の揚句計算書を突付けられ懷中無一文で中部署に訴へられ御目玉頂戴代金支拂ひ事濟み

●幼兒の死体發見　旭町二丁目西洋洗濯屋島田勘次郎方前に油紙に包みありたる棄兒ありし由にて南部署に持來り目下取調中なりとぞ

●取消　昨紙掲載「通信手の誤艶聞」なる記事は事實相違の點もあり且つ本人より左の通り申込みありたるに付き取消すことゝしたり

前略貴社五月十一日發刊第四百一號「通信手の誤艶聞」と題し小生に關する記事御掲載相成候得共全く事實無根にして何者か仲傷的投書をなしたるものと被察小生に於ては迷惑不尠候間至急此全文を掲げ御取消し相成度此段申進候也 明治四十三年五月十一日 前田隆印 京城新報社御中

目と耳

▲歌舞伎座　木村一座十二日の替り狂言は小杉天外作の『化け柳』にして三十九年京都歌舞伎座に於て木村猛夫の爲めに並木萍水が脚色書き卸せしものにて開座十八番の演し物なれば一層の見榮わあるべし重なる配役左の如し 北尾雪子(野村)娘靜子(澤井)髮結お德(福澤)揚卷おしん(白石)大河內直次(桃井)神田上等兵(三好)伊藤伍長(廣瀨)豆の金太(渡邊)石工甚八(富士井)村長古川(石井、北尾濟三郎(榎本)正木上等兵(內田)北尾曹長(木村)

▲壽座の次興行　近頃珍しき大入を爲したる中村時子一座は去る八日限り打揚げて龍山に乘込み其後替りとして中村芝十郎、中村翫若、澤村竹三郎の舊劇一座乘込み十三日を初日に開場の筈なるが翫若は曾て林昇と稱し數年前渡韓したる事あれば當地にては最負客も多く隨つて一座の前景氣今より盛んなりと初日前狂言は『難波戰記大阪陣』大序より大詰迄切狂言は『艶容女舞衣三勝半七酒屋の段』にして尙ほ中狂言として『暗闘』を見する筈重なる役割左の如し 木村重成、おその 中村翫若 淀君、三勝(實川正三郎)片桐且元、眞田幸村でつち(澤村竹三郎)德川家康、半兵衛(三桝大介)後藤又兵衛、眞田幸村宗眼(中村芝十郎)

今日の運勢

五月十二日舊四月三日五黃●赤口●丁丑成△一白●破れ●凶き日新事及金錢取組和解●婚姻旅行見合すべし△二黑●婚姻養子共同組合の事談に吉其他凡△三碧●聞違紛紜多し●貸借取引賣買に注意し遺失防ぐべし△四綠●沒要領の日なり開店開業模樣方針替整理改革見合せの事相談訂盟締約見込なし△五黃●南方は吉的殺なし衛生に留意し紛爭を避くべし△六白●有望の日旅行開店業入學門婚姻相談功果あり金談の出納に注意すべし△七赤●大吉帳簿印章の上に注意を要す△八白●抵會心の日なり相談依囑入門就職新事情義のため損害起らんとす旅行共同組合婚姻等良好△九紫●家庭近親のため煩累係累あらん其他快欣の日なり大抵吉(本町五丁目三一館判斷)

●天氣豫報(自十一日午後六時至十二日午後六時)
南西風晴溫度昇ル
十日(華氏) 最高溫度八一、三 最低溫度五七、七

荊妻いち子葬送の節は遠路御會葬被成下御厚情奉鳴謝候乍略儀紙上を以て御禮申述候
五月十二日 京城本町一丁目 增本好三郎 友人 中島安邦 總代 小川勝平

美術半襟帶締其他紐類各種
京城明治町一丁目
電話一千四百〇九
ゑり德商店

仁丹

消化と毒けし

完全ナル懷中藥

THE JINTAN
仁丹（ジンタン）

略効
▲惡酔宿酔
▲船車よい
▲頭痛目眩
▲胸腹痛み
▲氣の鬱ぎ
▲吐き下し
▲口熱口臭
▲惡病豫防

●舟車に乘る時は必ず仁丹を召しあがれ眞に無限の爽快を感ぜらる

韓國代理店　京城　新井藥房

各科診療
松岡醫院
南山町二丁目
電話六七八番
入院隨意

●三味線のはりかはどこがよいであろうかはりがよくてねだんの安いは
京城本町五丁目郵便ポスト前
米川三味線店に限る
其他月琴 洋琴尺八笛類一式安價販賣仕候

ヴァイオリン速成教授
追て教授は親切ご叮寧に可仕候尺八指南も取次します

入院隨意
中島醫院
京城壽町三丁目（電話三七八番）
院主醫學得業士
中島貞信

弦齋流割烹
に歌舞伎辨當
材料の豐富ご技倆の熟練は割烹界に於ける弊店の特色に有之候
南山町一丁目（電話一五〇二番）
すゞ津祢
出前の儀は電話又は一報次第即刻持参可致申候

明治廿年七月創立●京城代辨店 本町四 山口呉服店電話九番
東京火災海上運送保險株式會社
資本金一千萬圓●事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

諸荒物世帶道具一切
其他和洋蠟燭
アサヒ サッポロ ビール
精白米
右大勉强仕候に付陸續御用命仰付られ度伏奉願上候
京城本町六丁目
日用雜貨卸問屋
西崎嘉七本店
電話二一〇電（二カ）番
振替貯金口座韓七番

廣告
民事、刑事、其他總ての訴訟事件の鑑定貸金證券、賣掛代金、約束手形、爲替手形、其他總ての債權は事件の大小に不拘現金買入
貸債、貸金、銀行、會社の整理引受及相談等は懇切依頼に應ず
貸金請求、家賃取立、小作取立、其他總ての民事、刑事訴訟事件
右は迅速確實に依賴者の滿足を旨とし事務を取扱ふを以て事件の大小に不拘御來談を乞ふ
京城旭町二丁目百四十五番戸
堤重四郎法律事務所
鍾路典獄後洞廿一統六戸
同 鍾路出張所

旅館
京城南山町三丁目
京城ホテル
電話長一二三番 四九二番

日本室和食
特等（壹圓五十錢）
一等（二圓五十錢）
二等（壹圓八十錢）
三等（壹圓六十錢 壹圓五十錢）

神戶資生分院
京城南山町（南門跡横）
京城梅毒病院
◎花柳病專門並ニ痔（注射療法）
入院隨意
院長 醫學得業士 齋田
（電話二二九四）

木材賣却廣告
一鴨綠江松材現木
一長サ八尺五寸以上二間半
一尺五寸角以上二尺迄
右木材多數所有致し居候に付特別安價に賣却仕候間御望の方は御來談被下度願上候
京城旭町三丁目
建築業 柴田芝六
電話五百六十八番

電話一一八二番
京城曙町
大槻商行質部
金高の多寡に拘はらず十二分の御便利を圖り迅速御相談に應ず質物は叮嚀に取扱ひ極めて安全に一定の場所に保管す
流質品と雖も場所の許す限り可成長期間大切に留保し爲遺漏なきを期す

消毒牛乳（保證附）
フレッシユバター（新鮮乳油）
韓國畜產株式會社
南大門外 電話八八番

訴訟非訟登記戶籍上の變更訂正諸願契約起案諸會社定款作成其他諸般の代書
右者拾數年の經驗ご精賓さを以て迅速に依賴者の滿足を旨こし事の大小難易を問はず自らに其衝に當り極力成効を期す
京城裁判所前向
池田事務所

東京足袋
正札付大安賣厘毛引なし安心して買へ升
本店東京
京城大和町一丁目（日の出橋際）
大和屋
藤井出張店
電話二百〇五番
明治町勸商場内ニモ出張店アリ

値上廣告
韓語大成
一部一圓八十錢
郵送料十五錢
從來一部一圓五十錢の處今回紙數百余頁を加へ改正增補致候間前記の通り値上候也
京城本町五丁目
釘本藤次郎本店
長電話四五番
振替貯金口座韓國二五六番

名しと道樂
鯛松たけめし 一人前三十錢
あなご竹の子めし たなしく
鷄ゑんどうめし たなじく
誰でもおなじみの大阪美人、御光來の程を待ちかねて居りますから、御賞味を賜はりたう、尙は多少によらず出前も仕ります、與々も御用命伏して御願申上げます
大和町三丁目
梅の家眞向ひ
電話七三五番
明月

金魚各種卸小賣
陸軍御用達
龍山山下町一丁目（兵器支廠官舍入口）
馬木勇吉本店
電話三六四番
茶器商
京城本町五丁目一番戶角
馬木勇吉支店
電話四七一番

特約販賣自製
味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
支那白菜漬
朝鮮菜葉漬大賣出し
大上商店
（電話二五一番）

韓官衙諸用品調達
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類

委托販賣
東京ランバード商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
藤田合名會社
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
全羅鹽業合資會社食鹽特約

本社 京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所 東京新橋 南大門通 鍾路一丁目（電話二九六番）